

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

## 三区間スポーツ交流事業

# 実 施 報 告 書

(平成 29 年 7 月 25 日～29 日)



平成 29 年 10 月

目黒区・目黒区教育委員会

## 【目 次】

I. はじめに	1
II. 三区間スポーツ交流事業（北京市東城区）【7月25日～29日】	
1. 目的	2
2. 主催者	2
3. 日程	2
4. 参加者	3
5. 概要	4
6. まとめ	21
III. 三区間スポーツ交流事業及び中学生卓球交歓大会現地事前調査 （北京市東城区・北京市内）【6月5日～7日】	
1. 目的	22
2. 日程	22
3. 訪問団	22
4. 概要	23
5. まとめ	27
IV. おわりに	28
<b>【参考資料】</b>	
1. 「三区間スポーツ交流報告書」（団長）	30
2. 「交流レポート」（生徒12名）	31

この事業は、一般財団法人自治体国際化協会の助成事業により実施されています。

## I. はじめに

目黒区と北京市東城区との交流は、昭和54年度に東京都が北京市と友好都市の提携を結んだことから、2年後の昭和56年度に当時の目黒区長が北京市を訪問、その折、当時の北京市崇文区（現在の東城区）を訪問したことがきっかけで、崇文区と目黒区との交流が始まりました。

その後、平成3年度に崇文区と目黒区は友好都市協定を締結したことにより本格的な交流が始まり、相互に友好交流団を派遣するなど交流を推進してきました。また、平成22年度に崇文区と隣接する東城区が合併したことに伴い、平成23年度に東城区と目黒区は改めて友好協定を締結し、この間も目黒区議会の訪中、両区の児童・生徒による書画作品展の開催や小学生による年賀状交換など様々な交流を続けてきました。

一方、目黒区とソウル特別市中浪区の交流は、崇文区と中浪区が友好都市関係にあることから、平成22年度に中浪区から区に対して友好交流要望があり、その年に相互に代表団が訪問するなど交流が始まりました。平成25年度には、目黒区と中浪区は「友好増進及び交流協力覚書」に調印し、両区の小学生による賀状の交換など交流を始め、今日まで継続しているところです。その後は、目黒区スポーツ交流団が中浪区を訪問してバレーボールの交流試合等を行いました。

区としては、友好関係にある東城区と中浪区との交流推進に向けて、文化・芸術、教育、スポーツなどの分野で様々な交流の発展を目指していくため、平成27年7月に東城区長及び人民代表大会常務委員会主任から招聘を受け、区長、議長をはじめとした目黒区代表団が東城区を訪問しました。その際、目黒区長から当時の張家明（ジャン ジャミン）東城区長に対して、中浪区も含めた三区間での青少年同士の交流ができないか提案を行い、東城区長から前向きな回答を得たことから、今後、実現に向けた実務者協議を行うことなど合意しました。

そして、平成28年7月、再び東城区長からの招聘に基づき、三区間の交流事業の実現と、継続した友好交流関係を築くため、区教育委員会の職員も含めた訪問団を編成して東城区を訪問し、東城区、中浪区実務者による三区間協議及び意見交換を行いました。この三区間協議では、①次年度に次代を担う子どもたちによるスポーツ交流を行うこと、②今回の実施場所は東城区とすること、③対象は中学校第2学年男子生徒とすることなど、今後の交流事業実施など合意し、詳細について今後実務者レベルで協議していくこととなりました。

こうした経過を踏まえて、これまでの東城区と中浪区との交流の経緯や協議に基づき、三区の子どもたちによるスポーツ交流事業の実施と、三区の継続した友好交流を推進していくため、本年「三区間スポーツ交流団」を編成し、7月25日から29日にかけて東城区を訪れ、目黒区として初めてとなる三区の中学生によるスポーツ交流事業を実施しました。

本報告書は、この事業実施結果をとりまとめたものです。

## Ⅱ. 三区間スポーツ交流事業（北京市東城区）【7月25日～29日】

### 1. 目的

友好都市である中国北京市東城区及び友好交流覚書を取り交わした韓国ソウル特別市中浪区との継続した友好交流を推進するため、次代を担う子どもたちによるスポーツ交流を行う。

### 2. 主催者

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

### 3. 日程

平成29年7月25日（火）から7月29日（土）まで（4泊5日）

月日	時間帯	内容
7月25日（火）	午前 午後	・羽田空港から出国（NH0961便 9時25分発） ・北京到着 ・在中国日本大使館訪問 ・大会会場（地壇スポーツセンター）で練習 ・歓迎晩餐会（東城区副区长主催）
7月26日（水）	午前 午後	・三区間バスケットボール大会開会式 ・第一試合（東城区対中浪区） ・第二試合（目黒区対東城区）
7月27日（木）	午前 午後	・第三試合（目黒区対中浪区） ・三区間バスケットボール大会閉会式 ・伝統文化交流（うちわ絵付け・北京市第五中学校） ・東城区内見学（南鑼鼓巷） ・関係機関表敬訪問（区長他） ・送別晩餐会（東城区人民代表大会主任主催）
7月28日（金）	午前 午後	・鼓楼、鐘楼見学 ・孔子廟、国子監見学 ・故宮見学 ・景山公園見学
7月29日（土）	午前 午後	・龍潭公園見学（目黒の桜） ・北京空港から出国（NH0962便 15時35分発） ・羽田空港着

<参考> 経費（区交流団・事務局20名分）

旅費、宿泊費、記念品等 4,115千円余

※ 三区間の取決めにより、現地での現地車両費、通訳士経費、晩餐会経費は、東城区側が負担。

#### 4. 参加者

##### (1) 三区間スポーツ交流団 (16名)

団 長 金子 弘樹 目黒区立第十一中学校長  
団 員 椿 一夫 目黒区立第八中学校主幹教諭  
伊藤 陽一 目黒区立第七中学校教諭  
福本 美貴子 目黒区立大鳥中学校主任養護教諭  
<選 手> 目黒区立中学校第2学年男子生徒12名

学 校	氏 名
第一中学校	加藤 航大
第七中学校	岡本 瞬
第七中学校	松浦 月歩
第八中学校	高橋 匠
第八中学校	竹島 憲太
第九中学校	宮川 大和
第十中学校	山本 雄詞
第十一中学校	熊木 乃樹亜
第十一中学校	武藤 真吾
東山中学校	澤田 昂佑
目黒中央中学校	橋口 晃太
大鳥中学校	大石 晴陽

##### (2) 事務局 (引率者・4名)

上田 広美 文化・スポーツ部長  
濱下 正樹 文化・交流課長  
山口 英二郎 スポーツ振興課長 (※7月26日から訪問)  
工藤 邦彰 教育指導課指導主事

※7月26日～28日の訪問者 (3名)

青木 英二 目黒区長  
尾崎 富雄 教育長  
勝島 壮介 秘書課長



## 5. 概要

### (1) 交流1日目(平成29年7月25日)

#### ア 在中国日本大使館訪問

- ① 日時 平成29年7月25日(火) 午後2時10分から3時55分
- ② 場所 在中国日本大使館
- ③ 対応者 山本恭司公使他

北京市に到着して最初の訪問地は在中國日本国大使館でした。これは、6月の現地事前調査で日本大使館を訪問した際、三区間スポーツ交流時に目黒区の中学生に対して、日本大使館職員から中国の現状などを率直に生徒に伝えることで、教育的な効果が期待できることから実現したものです。



初めに、大使館職員の計らいにより、敷地内の日本庭園散策を行いました。その後、日本大使館内に入り、通常、大使館の客人が使用する対談用のソファに座らせてもらい雰囲気を味わったほか、食事会が行われる部屋では客人が訪れた際の対応などの話がありました。

次に、大使館内にある広報文化センターに場所を移すと、日本で見ることのできる本、週刊誌、マンガなどが陳列されており、生徒たちもどのようにして中国に入って来るのかなど質問をしていました。

館内の説明が概ね終了した後、日本大使館山本公使による講話が行われました。

山本公使からは、大使館の広さはサッカーグラウンドが6面取れること、中国は人口も多く面積も広いが、経済的な交流の多いことから大使館の規模も大きいという話など、生徒たちも真剣に聞いていました。また、日本と中国の領土や歴史問題に関する関係、そして隣国でありながら国民一人ひとりの人格や考え方などは、日本人と全く違うことなど、興味深い話を聞くことができました。さらに、質問コーナーも設けていただき、中国全般に関することや公使のプライベートに



関わる率直な質問に対し、公使も戸惑った様子を見せながらも、笑顔で生徒たちに分かりやすく説明していただいたことが印象的でした。

最後に山本公使は「中国人を一括りで見めるのではなく、一人ひとりを見て感じてほしい。そして、みんな違うという前提で接し、その中で自分と同じことがあったらそれを認め、喜びにつなげてほしい。」と、国際理解、国際交流に関する基本的な考え方を生徒たちに伝えていただきました。



## イ 地壇スポーツセンター（大会会場での練習）

- ① 日 時 平成29年7月25日（火）午後4時20分から5時30分
- ② 場 所 地壇スポーツセンター

翌日からのバスケットボール試合を控え、事前に大会会場での練習を行いました。当会場は体育館では珍しい2階建ての体育館で、両階ともにバスケットボールができる構造となっていました。

当初の予定では、練習は国ごとに練習を行う予定でしたが、2階フロアが使用できない状況であったため、中浪区チームと体育館1階のフロアを半分ずつ使用して練習することになりました。短い練習時間でしたが、日本で練習してきた動きや作戦、床の状態や会場の雰囲気を確認し、翌日の大会に備えていました。



## ウ 歓迎晩餐会（東城区政府趙 凌云（ジョウ リンユン）副区長主催）

- ① 日 時 平成29年7月25日（火）午後6時30分から7時45分
- ② 場 所 東方美爵酒店

歓迎晩餐会は、三区の中学生と関係者一堂に会して開催されました。初めに東城区趙 凌云（ジョウ リンユン）副区長から「三区間の青少年バスケットボール大会が開催できることは皆さんのサポートがあったからです。この大会が今後の友好交流に向けての大きな一歩となることを期待しています。」と挨拶があり、和やかに晩餐会は始まりました。



目黒区の生徒たちも、この場で初め

て東城区、中浪区の生徒たちと顔を合わせ、3人ずつ同テーブルを囲んで食事を共にしました。初めての他国の同世代との交流に緊張した面持ちでしたが、明日からの試合に向け力を蓄えているようで、出された食事を頬張っていました。



## (2) 交流2日目(平成29年7月26日)

### 三区間スポーツ交流「バスケットボール大会(1日目)」

- ① 日時 平成29年7月26日(水) 午前9時15分から午後4時30分
- ② 場所 地壇スポーツセンター

バスケットボール大会の初日、目黒区の生徒たちはやや緊張した面持ちで、交流会の会場となる地壇体育館に入りました。目黒区の交流戦は午後の予定であったため、会場入り後、体育館2階を借りて短時間の練習を行いました。



9時30分からの開会式は、初めに東城区区長、中浪区副区庁長の挨拶があり、その後生徒代表挨拶が行われました。

目黒区選手団代表の挨拶はキャプテンの第八中学校竹島憲太さんが務めました。1センテンスごとに担当の通訳者が中国語・韓国語に翻訳するため、それぞれの言語に翻訳されるのを待って落ち着いて話していました。

最初の試合は、東城区と中浪区の対戦でした。東城区の代表は北京市第五中学校のバスケットボール部で、チームは2017年度に中学校部活動の大会で東城区1位



の成績を収めるとともに、中国の全国大会で1位に輝いた実力のあるチームということでした。一方、中浪区の代表は公募で集まった生徒たちで、中浪区にはバスケットボール部がある中学校は少なく、部活に所属していない生徒もいるとのことでした。

バスケットボールの試合は、事前に三区間で確認したとおり、10分間のピリオドを4回40分間で行われました。東城区のスターティングメンバーは第1ピリオドのみの出場、第2ピリオド以降は控えの選手中心の出場でした。中浪区の生徒たちも善戦していましたが、試合は終始東城区がリードするワンサイドゲームとなりました。目黒区の生徒たちは、中国1位のチームのプレイを真剣に見学していました。

昼食を挟んで、午後3時から目黒区と東城区の試合でした。試合開始前に目黒区長、教育長が会場に到着し、一緒に到着した目黒区議会日中友好議員連盟と目黒区日中友好協会で編成する「日中韓三区スポーツ交流目黒区応援団」総勢10名の応援がありました。

試合では、目黒区の生徒たちは事前練習の成果を発揮し頑張っていました。東城区のメンバーは控えの選手を入れても平均身長が1

75cmを超える中、目黒区の選手団の平均は165cm、10cm以上体格が異なるチームと試合をすることも初めての経験となりました。普段の試合であれば、インサイドへのカットイン（ゴールに迫って至近距離から攻撃すること）が



中心となる場所、身長差が大きいチームを相手には通用しない攻め方となります。事前の練習会ではアウトサイドからのロングシュートを中心に攻撃を組み立てる練習をしてきましたが、普段と異なる戦術を実践するのは簡単ではないこと、また、普段の試合とは違うことを体感し、身長差がある相手との戦い方を生徒一人ひとりが考えることができました。

第1ピリオド・第2ピリオドの前半を終えたところで目黒区19点、東城区54点と大きくリードされました。東城区は、前半は主力選手中心のチーム構成を、後半からは主力を1、2人にし、その他を控えの選手中心の構成としてきました。目黒区の生徒も実戦を通してアウトサイド中心の攻め方に慣れてきたこともあり、後半は目黒区がリードする試合展開となりました。攻撃・守備ともにチームプレイが機能し始め、目黒区の生徒全員が得点することができました。



試合の結果は、目黒区65点、東城区87点と敗れましたが、試合を通してバスケットボールの技術が向上し、チームプレイを通して生徒たちが絆を深めている様子が見られました。また、身長差がある相手、中国1位と実力がある相手と戦ったことは、通常の部活動では得られない貴重な経験となりました。



### (3) 交流3日目(平成29年7月27日)

#### ア 三区間スポーツ交流「バスケットボール大会(2日目)」

- ① 日時 平成29年7月27日(木) 午前9時30分から正午
- ② 場所 地壇スポーツセンター

大会2日目の午前中に、目黒区は中浪区と対戦しました。試合開始前の練習では、目黒区の生徒たちにはこのチームで勝ちたいという気持ちが表れていました。中浪区の生徒たちも気持ちは同じであるように見え、前日よりも組織的な守備、



連携を重視した攻撃ができるようになってきていました。それぞれの区の代表として懸命にプレイをするスポーツ交流会は、責任感を育むことにおいても大変意義のある取り組みであると感じました。



試合は実戦経験で勝る選手の多い目黒区がリードする展開となりました。第1ピリオド・第2ピリオドの前半を終えたところで目黒区31点、中浪区15点とリードして折り返しました。後半は中浪区の主力選手がファールで退場し、控えの選手が多く出場しましたが、中浪区の控えの選手も組織的な守備ができるようになっており、目黒



区の生徒全員が得点するには至りませんでした。試合結果は目黒区67点、中浪区29点と大差が付きましたが、試合終了後の記念撮影では中浪区の生徒も皆笑顔で充実した様子が見られました。

全ての試合終了後、閉会式が行われ、東城区副区長の挨拶の後、目黒区長は「念願であった三区間スポーツ交流が実施され、三区の生徒たちの素晴らしいプレイに感動しました。次代を担う子どもたちのため、交流事業は続けていきたい。」と述べました。

各チームからは優秀選手の発表があり、目黒区は優秀選手として第十中学校の山本雄詞さんが選ばれて試合の感想を述べました。また、第一中学校の加藤航大さんが目黒区選手団代表挨拶として、この経験を今後の学校生活、バスケットボ



ールの活動に生かしていきたいことを堂々と話すことができました。

スポーツ交流を通して、日常の学校生活では得られない貴重な経験を得るとともに、目黒区の代表としての意識を高めることができる大変意義のある取り組みであることを再確認することができました。



## イ 伝統文化交流（体験活動）

- ① 日 時 平成29年7月27日（木）午後2時から4時
- ② 場 所 北京市第五中学校
- ③ 参加者 目黒区・東城区・中浪区生徒

バスケットボール大会終了後、本大会に出場した東城区生徒が在籍する「北京市第五中学校」で、校舎見学と中国伝統文化体験を行いました。

初めに、多目的室に三区の生徒たちが集められ、歴史がある第五中学校の簡単な紹介とこの後の行動の説明がありました。説明後、校舎と地下にある体育館を見学しましたが、体育館はバスケットボール環境としては十分で、冷房など設備面も整っており、中国1位の実力の理由が理解できました。



続いて、中国伝統文化体験として、目黒区の生徒は「うちわ」、中浪区の生徒は「お面」への絵付け体験を行いました。目黒区の生徒たちは、講師の説明を真剣に聞いて、約1時間自らの思い描く色をうちわに色付けしていました。

最後に、校庭でそれぞれ作成した作品を手に記念撮影を行って伝統文化交流を終りました。



#### ウ 北京市東城区内見学

- ① 日 時 平成29年7月27日（木）午後4時から5時
- ② 場 所 北京市東城区南鑼鼓巷（なんらここう）
- ③ 参加者 目黒区・東城区・中浪区生徒

南鑼鼓巷は、元の時代の建築物が残る街で、700年を超える歴史があり、当時に整備された「里坊制」（碁盤の目の街並み）が残る昔からの伝統建築の家が並んでいました。一方、古い建物を改造したカフェや雑貨店など、お洒落な店舗が連なっており、新旧混在の景観を楽しめる場所でした。

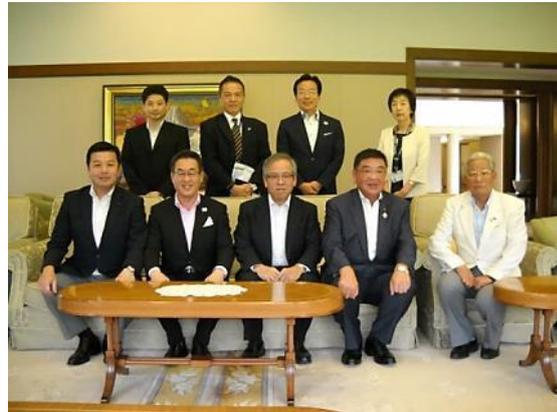


#### エ 関係機関表敬訪問（区長、教育長他）

##### （ア）在中国日本大使館

- ① 日 時 平成29年7月27日（木）午後0時30分から1時30分
- ② 場 所 在中国日本大使館
- ③ 対応者 【日本大使館】伊藤康一臨時代理大使、山本恭司公使他  
【区側】区長、議長、日中友好目黒区議員連盟会長、教育長他

在中国日本大使館では、伊藤康一臨時代理大使から「国交正常化45周年という節目の年に、地道に自治体交流を継続している目黒区長にお会いでき、大変光栄です。私も目黒区東山に住み、子どもを東山小学校に通わせていたことがあり、懐かしく思います。今後とも、友好交流の継続・充実をお願いいたします。」という挨拶をいただきました。



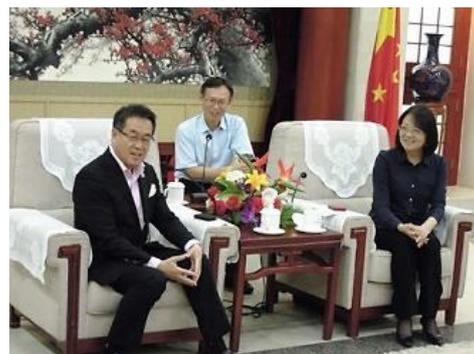
目黒区長は、「初めて日本大使館を訪問する機会をいただいたことに感謝します。現在、国際情勢、特に東アジアの情勢は、大変緊迫しております。国政が厳しい状況にあるときこそ、自治体・住民レベルの草の根の交流が大切であるという認識です。これからも、東城区との交流に全力で取り組んでまいりますので、ご支援をよろしくをお願いいたします。」と話していました。

#### (イ) 北京市人民対外友好協会

- ① 日 時 平成29年7月27日(木) 午後2時30分から3時10分
- ② 場 所 北京市人民対外友好協会
- ③ 対応者 【対外友好協会側】 田雁(デンガン) 常務副会長他  
【区側】 区長、教育長他

日中韓三区スポーツ交流目黒区応援団

北京市人民対外友好協会の田雁(デンガン)常務副会長は、「私が非常に若かった時代、当時の崇文区との交流事業に何回か参加してきました。北京市を代表して両国の友好事業に出席しましたが、熱い情熱があふれた交流の場面を今でも鮮明に記憶しています。崇文区と東城区は、合併しても目黒区との友好関係は変わらずに継続しています。合併した後も、両区の友好関係はさらに発展



していることは、非常に素晴らしいことだと思っています。」と挨拶されました。また、「中日関係は、国レベルの関係では難しいことがたくさんありますが、区レベルの交流や民間レベルの交流がより発展し継続していることは、大変ありがたいと思います。」と感謝の言葉がありました。

目黒区長は、「確かに国レベルでは難しい課題があると思いますが、両区の友好な関係、特に青少年の貴重な交流経験は、今後の末長い両区の実現と交流にとっても大切なことです。行政はもちろんのこと、議会、特に日中友好議員連盟、目黒区日中友好協会の皆様とも協力して努力していきたい。」と応じました。

#### (ウ) 東城区人民代表大会

- ① 日 時 平成29年7月27日（木）午後4時30分から5時00分
- ② 場 所 東城区人民代表大会
- ③ 対応者 【東城区人民代表大会側】

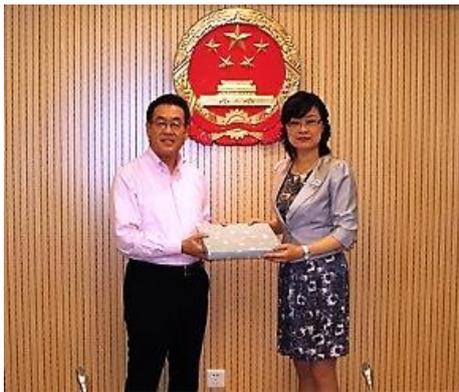
東城区人民代表大会金暉（ジン フィ）主任他

【区側】区長、教育長他

日中友好目黒区議員連盟会長他

「みなさん、心から熱烈歓迎いたします。」

東城区の議会にあたる人民代表大会を訪問し、議長である金暉（ジン フィ）主任は、1991年10月、目黒区と崇文区が友好都市協定を締結して26年間に「相互努力によって、両区の友好はととも穏やかに発展してきました。」



と振り返りました。中国と日本だけでなく韓国も加わった、今回の中日韓の三区間の交流による大会の成功を称え、「青少年は国の宝です。これから青少年の交流によって、我々の交流は今まで以上に深まっています。将来を見据えて議会の間でも交流を増やしてほしい。これからも継続して実施することを望んでいます。」と今回の大会を高く評価していました。

#### (エ) 東城区人民政府

- ① 日 時 平成29年7月27日（木）午後5時35分から6時15分
- ② 場 所 東城区人民政府
- ③ 対応者 【東城区人民政府側】

東城区人民政府李 先忠（リ シェンジョン）区長他

【区側】区長、教育長他

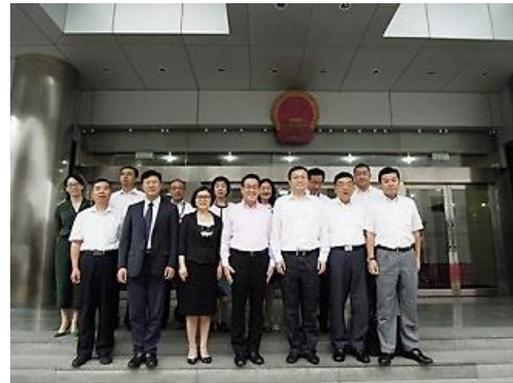
日中友好目黒区議員連盟会長他

北京市東城区人民政府李 先忠（リ シェンジョン）区長は、「青少年という子どもたちは、両国の未来を担う非常に大事なものと考えております。スポーツは、非常に理想的な青少年の交流の手段になっていると思います。私としては、このような交流をぜひ継続させよう思っております。ホスト国としては、二回目の大会が目黒区で開催されることを願っております。韓国中浪区と懇談をしましたが、例えば、親善試合の間、対戦以外に夜の時間での交流や、スポーツ以外の



何か文芸的な交流など、いずれも、中学生同士の身近な交流ができれば、もっと良いものになるのではないと思います。」と今回のホスト国として、さらに今後の友好交流を深める提案があった。

目黒区長は、「スポーツは、一つのきっかけです。それ以外に、もっと触れ合う機会を提供するということは、大事な提案だと思えます。いずれにしても、目黒区だけで決めることはできないので、東城区と中浪区とよく相談して、次回に間に合うかどうかわかりませんが、しっかり検討していきたいと思えます。」と応じました。



#### オ 送別晚餐会（東城区人民代表大会金 暉（ジン フィ）主任主催）

- ① 日 時 平成29年7月27日（木）午後6時30分から8時15分
- ② 場 所 全聚徳王府井店

送別晚餐会は、北京市を代表する北京料理店「全聚徳」で行われました。

初めに、東城区人民代表大会金 暉（ジン フィ）主任は「今回初めて三区間で青少年のスポーツ交流事業が関係者の協力のもと実施され成功したことは、三区の友好交流の推進に向けて大きな成果です。真剣に試合に取り組む生徒たちの姿を見て誇りを感じています。今後も青少年の交流を通じて三区間の交流を一層発展



させていきたいと思います。次年度は目黒区での開催を希望していますが、再会できることを期待しています。」と挨拶されました。

続いて、目黒区長が「2日間素晴らしいプレイを繰り広げ、我々に感動を与えてくれた三区の次代を担う生徒たちに感謝します。次年度の開催は皆さんと調整していきたいと思います。今後の三区間の友好交流はつながっていくと信じています。」と挨拶した後、和やかに晩餐会は始まりました。



会の中盤、本格北京料理「全聚徳」の看板メニュー「北京ダック」が紹介され、美しい盛り付けが披露された時には、会場から歓声が上がりました。生徒たちも、歓迎晩餐会と同様に目黒区、東城区、中浪区の生徒たちが3人ずつ同テーブルを囲んで本格北京料理を楽しんでいました。



バスケットボールの試合で共に戦い親交を深めた生徒たちは、初日の歓迎会よりは生徒同士打ち解けている様子で、言葉は通じなくても、身振り手振りのジェスチャーを交え、時折英語の単語を並べて三区の中学生同士で会話するなど、時折笑い声が飛び交う中、お互いを理解しようとする姿や積極的に交流を図ろうとする姿勢が見られました。

#### (4) 交流4日目(平成29年7月28日)

##### ア 鼓楼・鐘楼

- ① 日時 平成29年7月28日(金) 午前9時から10時30分
- ② 場所 鼓楼(ころう)・鐘楼(しょうろう)
- ③ 参加者 目黒区・東城区・中浪区生徒

交流4日目は、東城区内、北京市内の歴史的な建造物を中心とした場所を、東

城区、中浪区の生徒たちとともに見学しました。最初に訪れた場所は、現地事前調査でも訪れた鼓楼・鐘楼でした。

建物内に入る前、待ち時間を利用して、建物前の広場で市民が行っていたジェンズ（毬子）を使った羽根蹴りゲームに通訳の計らいで飛び入り体験しました。



初めに、「鼓楼」の見学では、建物内部の一直線で急傾斜69段の階段に驚きましたが、生徒全員が最上段まで息を切らしながらも登りきりました。建物内では、過去には水時計などで時間を計測し、大きな太鼓を叩いて市内に時を告げた場所を見学し、太鼓の実演を鑑賞しました。また、目黒区と中浪区の生徒にイヤホン型のスピーカーが配布され、施設管理者が説明した内容をその場で通訳が訳すことで、鼓楼ではかつてどのような理由で時を告げていたのかなどの説明をリアルタイムで確認できました。



次に、鼓楼のさらに北に位置する「鐘楼」を見学しました。大きな鉄の鐘が下げられている楼内まで65段の階段を再び駆け上り、吊り下げられている鐘では世界最大級であるなどの説明を聞き、北京市の風景を一望できました。



## イ 孔子廟、国子監

- ① 日 時 平成29年7月28日（金）午前10時50分から正午
- ② 場 所 孔子廟（こうしびょう）、国子監（こくしかん）
- ③ 参加者 目黒区・東城区・中浪区生徒

孔子廟は、1306年に建てられた中国・春秋時代の思想家、儒教の創始者である孔子を祀っている霊廟（霊を祀る建物）で、国子監は、中国における隋代以降、近代以前の最高学府で、両施設共に北京市東城区の国子監街にあります。

両施設共に現地事前調査で訪問しましたが、孔子は歴史教科書にも登場する馴染のある歴史上の人物であり、生徒たちも熱心に説明者の話を聞いていました。



## ウ 故宮

- ① 日 時 平成29年7月28日（金）午後2時から3時40分
- ② 場 所 故宮（こきゅう）
- ③ 参加者 目黒区・東城区・中浪区生徒

現地事前調査では訪問しませんでしたでしたが、東城区内の有名な歴史文化施設で有名な観光地の一つである「故宮」に訪問しました。

故宮は、1420年に建造され、明・清朝の王宮として使用された建築物。南北の長さ961m、東西753mで、面積は約72万㎡もあり、城壁の高さは10m、幅52mの濠に囲まれており、周囲には6つの門があります。



映画「ラストエンペラー」でもロケーションが行われたことで有名である故宮のスケール感は、見た者でないと感じる事ができない壮大なもので圧倒されました。故宮内にある映像で歴史を振り返ることができる施設では、最新の映像技術を駆使して紫禁城など施設内部を様々な角度から再現しており、生徒たちも目の前にある歴史的な建造物と現代的な映像との融合を見ることができました。



## エ 景山公園

- ① 日 時 平成29年7月28日（金）午後3時50分から5時
- ② 場 所 景山（けいざん）公園
- ③ 参加者 目黒区・東城区・中浪区生徒

「景山公園」は、北京の中心地、故宮の北側に位置する人工の山で、面積は23万㎡、標高は94.2mです。



生徒たちは、故宮を見学後、景山公園の山頂を目指して遊歩道を登ると、故宮の全貌や北側には午前中に訪れた鼓楼も確認できました。

東城区内、北京市内の見学は終了となり、ここで東城区、中浪区の生徒たちと行動を共にすることも終了となりました。3日間のスポーツ交流、伝統文化交流を共にした生徒たちは互いに挨拶を交わし、和やかに次代を担う三区間の子どもの交流メニューは幕を閉じました。ホスト国として、全ての活動、見学に同行してくれた北京市第五中学校の生徒に深い感謝の意を示します。



#### (5) 交流5日目(平成29年7月29日)

##### 龍潭公園(目黒の桜)

- ① 日時 平成29年7月29日(土) 午前9時から10時50分
- ② 場所 龍潭(りゅうたん)公園
- ③ 参加者 目黒区生徒

現地事前調査では訪問しませんが、目黒区と東城区の交流の証として過去に植樹した桜の木がある「龍潭公園」を交流最終日に訪問しました。



龍潭公園は、東城区の東南、左安門内に位置し、南側と東側にはお堀があり、湖がメインの庭園になっています。

平成3年度に目黒区と当時の北京市崇文区が友好都市協定を締結しましたが、その交流の証として、平成18年度に当時の崇文区内に桜の木を植樹したのが、この龍潭公園です。植樹した桜の木は大きく成長し、春には日本と同様に桜の花が満開となります。植樹した桜の木周辺

には「記念碑」が建てられ、生徒たちは友好交流が継続していることを確認できました。



広い公園内には、憩い、レジャー、体力増進や伝統文化活動などで大勢の北京市民が集まっていました。公園内には体力増進を図る設備が整っており、特に高齢者の活動が目立っていました。

公園内では、ジェンズ（毬子）と呼ばれる羽根蹴りや卓球などのスポーツをしていた北京市民に通訳を通じて声をかけ、目黒区の生徒たちも活動の輪に入れてもらうことができました。生徒たちは、市民の輪の中にすんなり入り、輪になって羽根蹴りを行ったほか、ネットを使用したバレーボール形式の試合にも参加させてもらいました。



また、中国の伝統文化の一つである「中国ゴマ」の体験も市民の協力により行うことができました。生徒の中に、小学校時に教育委員会が実施している子ども教室事業に参加した際、中国ゴマを体験した生徒がおり、大変上手な腕前を披露し、北京市民からも拍手をもらっていました。区内での教育活動が国を超えてつながった瞬間でした。



## 6. ま と め

目黒区、東城区、中浪区の三区間スポーツ交流事業は、無事に、概ね予定どおり実施することができました。

事業全体を通しては、バスケットボール大会によるスポーツ交流に加え、伝統文化体験及び北京市内見学など、5日間の日程を十分活用した取組みが実施でき、様々な体験をすることができました。一方で、生徒同士のスポーツ交流以外での交流メニューや、積極的な関わりが持てるような仕掛けづくりなど、今後の実施に当たり課題もありましたが、全体的には大きな成果を上げたと考えています。

特に、今回参加した区立中学校第2学年12名の生徒にとっては、日本・中国・韓国の歴史や文化、言葉や考え方の違いなどを超えて、バスケットボールという共通のルールに基づいたスポーツを通じて、自身の持てる力を全て出し切り、チームとして一つにまとまって試合をすることができました。このことは、試合の結果より、お互いを理解し交流を深めることで、これから国際人として未来に羽ばたいていくための貴重な経験、自信につながる経験となりました。

また、中国伝統文化体験や古い建物と現代的な店舗が立ち並ぶ街並みの散策によって、日本とは違う文化や伝統を身近に感じ取ることができました。さらに、目黒の桜が植樹されている「龍潭公園」では、目黒区と東城区の交流の歴史を確認するとともに、公園に居合わせた住民との交流によって、北京市民生活や伝統文化の一端に触れることができ、日本では経験できない貴重な交流を体験することができました。

生徒たちには、このスポーツ交流事業で得た経験を、今後の学校生活や地域での活動、国際交流を初めとした様々な分野や、将来、社会人となって国際社会の場で生かしていただくことを願っています。

なお、次年度以降については、今回と同様の三区間スポーツ交流事業を実施していくことを三区で確認したところであり、今後の三区の交流の一層の推進を目指して、どこで開催するかも含めて、東城区、中浪区と調整を図っていきます。

### Ⅲ. 三区間スポーツ交流事業及び中学生卓球交歓大会現地事前調査

(北京市東城区・北京市内) 【6月5日～7日】

#### 1. 目的

今回の訪問の目的は、平成29年7月25日(火)から29日(土)に北京市東城区において実施される、目黒区、北京市東城区及び韓国ソウル特別市中浪区の3区による「三区間スポーツ交流事業」及び8月3日(木)から8日(火)に北京市内で実施される「日中国交正常化45周年記念中学生卓球交歓大会」の実施に当たり、実際に子どもたちが使用する体育施設や見学施設などを、現地において調査を行うほか、今回の交流事業詳細確認や次年度以降の交流推進に向け、東城区政府関係者と協議・意見交換を行うことです。

- (1) 三区間スポーツ交流事業実施に伴う現地調査及び協議
- (2) 日中国交正常化45周年記念中学生卓球交歓大会実施に伴う現地調査及び協議
- (3) 次年度以降の三区間による交流推進に向けた意見交換

#### 2. 日程

平成29年6月5日(月)から6月7日(水)まで(2泊3日)

月日	時間帯	内容
6月5日(月)	午前 午後	・羽田空港から出国(NH-961便 9時25分発) ・北京到着 ・東城区政府表敬訪問、協議 ・地壇スポーツセンター視察、協議 ・歓迎晩餐会(東城区外事弁主任主催)
6月6日(火)	午前 午後	・北京市人民対外友好協会表敬訪問 ・国子監、孔子廟視察 ・在中国日本大使館訪問 ・文天祥祠、鼓楼・鐘楼視察
6月7日(水)	午前 午後	・北京オリンピックセンター体育館視察 ・北京空港から出国(NH0962便 15時35分発) ・羽田空港着

<参考> 経費 (区訪問団5名分)

旅費、宿泊費、現地車両費、通訳士経費、記念品等 974千円余

※両区間の取決めにより、現地での晩餐会経費は、東城区側が負担。

#### 3. 訪問団

上田 広美 文化・スポーツ部長  
金子 弘樹 目黒区立第十一中学校長  
濱下 正樹 文化・交流課長  
山口 英二郎 スポーツ振興課長  
工藤 邦彰 教育指導課指導主事

## 4. 概要

### (1) 東城区人民政府訪問

- ①日 時 平成29年6月5日(月)午後3時15分から3時50分
- ②場 所 東城区人民代表大会政協楼
- ③対応者 東城区政府外事弁公室饶 景东(ラオ ジンドン)主任他4名

7月に行われる三区間スポーツ交流事業及び日中国交正常化45周年記念中学生卓球交歓大会の円滑な実施に向けた詳細の協議を行いました。

両区参加者の自己紹介後、東城区饶 景东(ラオ ジンドン)主任から、これまでの交流の経過の説明があり、「三区間スポーツ交流事業の成功に向けて詳細を議論したい。目黒区からアイデア等あれば是非提案いただきたい。」と発言がありました。

続いて、上田文化・スポーツ部長からは、「7月に目黒区長も同行を予定しており、それに合わせて是非東城区長と会談したい。」「三区間スポーツ交流のほか文化交流も予定されているが、子どもたちだけの交流パーティーや食事会なども実施してほしい。」「8月の中学生卓球交歓大会ではチームとして協力していきたい。」と発言し、三区間スポーツ交流や中学生卓球交歓大会の成功に向けて有意義な協議となりました。



### (2) スポーツ交流事業実施予定施設視察(地壇スポーツセンター)

- ①日 時 平成29年6月5日(月)午後4時から5時30分
- ②場 所 地壇スポーツセンター
- ③対応者 東城区政府体育局馬 振星(マー チェンシン)局長、任 立群(レン リーチュン)体育運動学校校長他3名
- ④見学・競技内容

#### ア 施設概要・確認

28年度に職員訪問団が視察した施設で、今回のバスケットボール交流試合において使用されることから、改めて視察を行いました。

日本にはあまり見られない2階建ての構造で、1階2階ともにバスケットボールコートが取れる造りとな



っている。交流試合は、1階で行い、2階は選手の練習場として活用可能であり、1階フロアは収納式の観客席が約200席ありました。



### イ 試合ルール等協議

馬氏ほか関係者とバスケットボール試合のルールなど詳細の協議を行いました。基本的には国際ルールに基づき試合を行い、1チーム2試合の総当たり戦とし、20分ハーフで10分休憩、試合結果の取扱いや個人表彰など協議しました。また、開会式、閉会式の流れ、集合時間、練習会場なども協議し、使用するボール、更衣室の確認なども行いました。



東城区は、今回確認した内容を中浪区に伝え、内容を確認することとなりました。

### (3) 歓迎晩餐会（東城区饶景东主任主催）

- ①日 時 平成29年6月5日（月）午後6時30分から8時40分
- ②場 所 淮揚府（安定門店）
- ③対応者 東城区政府外事弁公室饶 景东（ラオ ジンドン）主任、東城区政府体育局馬 振星（マー ゼンシン）局長他4名

会食をしながら、今後の交流促進についての話など終始和やかに懇談が行われました。

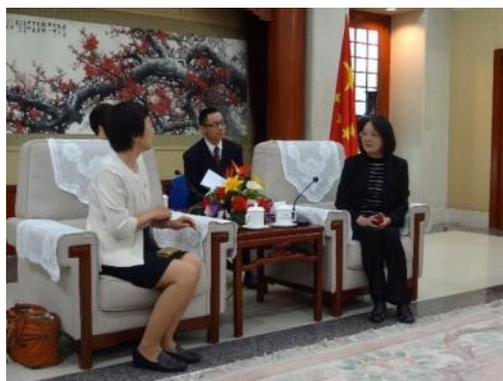


#### (4) 北京市人民対外友好協会訪問

- ①日 時 平成29年6月6日(火) 午前9時から9時30分
- ②場 所 北京市人民対外友好協会
- ③対応者 田雁(デンガン) 常務副会長他

初めに、上田文化・スポーツ部長から、7月に行われる三区間スポーツ交流事業と8月の日中国交正常化45周年記念中学生卓球交歓大会への協力要請を行いました。また、7月に東城区を訪れる際は目黒区長も同行することから、改めて本協会を訪問させていただくことを伝えるとともに、今後の友好交流推進に向けた協力体制の確認を行いました。

続いて、田雁(デンガン) 常務副会長から「青少年の友好交流は大切なことであり、日本と中国の友好交流推進のため全力で支援する。青少年のスポーツ交流が成功するため、中国全土の友好協会と協力して支援するとともに、7月に目黒区長との再会を楽しみにしている。」と発言があり、今後の交流推進に向けて有意義な協議となりました。



#### (5) 在中国日本大使館訪問

- ①日 時 平成29年6月6日(火) 午前11時40分から正午
- ②場 所 在中国日本大使館
- ③対応者 山本恭司公使、森田悠介一等書記官他

初めに、上田文化・スポーツ部長は、これまでの目黒区と東城区との交流の経過と今回の三区間スポーツ交流が実施された経緯等を説明した後、「区としては地道に自治体間交流を続けることを大事にしたい。また、7月に目黒区長が東城区を訪問することから、是非横井大使にお目にかかりたい。」と述べました。

山本公使は、「目黒区と東城区との自治体間交流をサポートしたい。青少年の国際交流は重要であり、日中国交正常化45周年を記念して市民交流を推進していきたいと考えている。」、「是非、7月の三区間スポーツ交流事業には出向きたいが、中国政府とのバランスが大事であるため調整したい。」、「日中関係はこれまでの経過から国民感情もあり難しい面もあるが、近年は回復しており、交流活動など再開している。今後も青少年の交流を深めていきたい。」と述べました。

約20分間という短い時間の会談でしたが、今後の目黒区と東城区の交流推進に向けてご支援をいただけることとなりました。また、会談後、山本公使の計らいにより、日本大使館近隣の北京料理店で昼食会となり、会食しながら和やかな雰囲気の中懇談を行いました。

#### (6) 文化交流事業見学予定施設視察

- ア 孔子廟、国子監

- ①日 時 平成29年6月6日(火) 午前10時から11時
- ②場 所 孔子廟(こうしびょう)、国子監(こくしかん)
- ③対応者 東城区政府外事弁公室職員

国子監は、中国における隋代以降、近代以前の最高学府。元・明・清三代に渡って置かれた北京国子監は現在、北京市東城区の国子監街にあります。その建築物は現在に至るまで残されており、全国重点文物保护单位となっています。

孔子廟は、中国、春秋時代の思想家、儒教の創始者である孔子を祀っている霊廟(霊を祀る建物)。北京の孔子廟(文廟ともいう)は東城区国子監街にあり1306年の建立で敷地面積2.2万㎡。



いずれの施設も中国の歴史を知るうえで、教育上好ましい施設であり、警備体制や安全面も良好であるため、見学施設として相応しいことを確認した。

#### イ 文天祥祠

- ①日 時 平成29年6月6日(火) 午後2時から3時
- ②場 所 文天祥祠(ぶんてんしょうじ)
- ③対応者 東城区政府外事弁公室職員

文天祥は、中国、南宋末の忠臣。元軍の南下に際し、1275年義勇兵を率いて抗戦、南宋滅亡後もその復興を図りましたが、捕らえられ大都(北京)で刑死。獄中の作「正気之歌」は有名です。

東城区にゆかりのある人物で、中国の歴史を知るうえで教育上也好ましい施設であり、施設内もコンパクトな造りで安全上問題もなく、見学施設として相応しいことを確認しました。



#### ウ 鼓楼・鐘楼

- ①日 時 平成29年6月6日(火) 午後3時30分から5時
- ②場 所 鼓楼(こうろう)・鐘楼(しょうろう)
- ③対応者 東城区政府外事弁公室職員

鐘楼は鼓楼のさらに北に位置し、楼内に大きな鉄の鐘が下げられていました。北京市の中心市街地は建築物の高度制限が行われているため、楼閣からは市内の様子や、制限区域外の最新の高層ビル郡などを一望することができました。



鼓楼は地安門外大街の北端にあり、かつては水時計などで時間を計測し、大きな太鼓を叩いて市内に時を告げた楼閣です。明の時代に建設され、清代に修復されたもの。高さ31mの木造建築物で、急傾斜の階段を使って楼閣に上ることができるようになっていました。



両施設とも北京市を代表する施設で、歴史的な価値や存在意義、当時の中国の様子を知りながら三区間の中学生同士で交流を深めることができ、安全面について急傾斜の階段での配慮や注意喚起が必要であるが、見学施設としては望ましい施設であることを確認しました。

#### (7) 日中友好45周年記念中学生卓球交歓大会会場視察（北京オリンピックセンター）

- ①日 時 平成29年6月7日（水）午前9から10時
- ②場 所 北京オリンピックセンター、北京会議中心
- ③対応者 東城区政府外事弁公室職員

2008年北京オリンピックの際使用された施設です。北京市の北部に位置し、広大な敷地の中にオリンピックメイン会場の通称「鳥の巣」や体育館など数多くの施設が集約されていました。

北京市オリンピック体育館は、北京オリンピックでの卓球の会場として使用され、国内外の様々な大会でも使用される施設です。設備や観客席、選手控室なども充実しており、子どもたちが安全で安心して使用できる施設であることを確認しました。



また、同敷地内には選手・同行者が宿泊する施設もあり、部屋は実際には見学することはできませんでしたが、北京市内の他のホテルと比較しても同等の設備であり、避難経路や安全面の体制も整っており、宿泊施設として望ましい施設であることを確認しました。

## 5. まとめ

今回の事前調査は、「三区間スポーツ交流事業」及び「日中国交正常化45周年記念中学生卓球交歓大会」の二つの交流事業が行われることから、両事業で子どもたちが安全に全行程を遂行できるよう、宿泊施設、訪問する体育施設と文化施設を可能な範囲でしっかりと調査できたことは成果でした。

## IV. おわりに

平成3年度から続いてきた東城区（友好都市協定時は崇文区）との友好交流、そして、当時の崇文区を介して始まったソウル特別市中浪区との交流は、平成29年7月、三区の中学生によるスポーツ交流事業の実施・成功によって、さらに友好交流を一步前進させるという目的を達成することとなりました。

また、言葉や考え方、育ってきた環境、国政や歴史認識など様々な状況が違う3つの国の中学生が、バスケットボールという共通のスポーツを通じて、時間と空間を共有し、お互いを理解し認め合い、そして、異文化交流や同じテーブルで食事を共にすることで、友好の絆を深める貴重な経験ができたことは大きな成果になりました。

今回の交流で、生徒たちは、それぞれの違いに気づき、その違いを認めたくえて、お互いを理解していくことが大切であることや、国や環境が大きく変わったとしても、相互理解という気持ちを持つことで、様々な状況に応じた対応ができることを学ぶことができました。このことは、これからの将来の夢に向かい羽ばたいていく子どもたちの「生きる力」をはぐくむ活動でした。

これまで友好交流を推進してきた目黒区、東城区、中浪区の三区が、国の垣根を越えて、同じ場所、同じ時間に交流事業を実施したことは、全国的にも例が少ない交流の取組みですが、このような取組みが継続して実施されていくことが、お互いの友好交流がより一層推進され、その取組みがさらに広がっていくことを期待するところです。

最後に、本事業実施に当たっては、今回のホスト国である東城区政府に対して、中浪区との調整や事業実施に係る準備や調整など、多大なる労力と時間を費やしていただいたことに、心から敬意を表します。

また、次年度以降も、このような草の根交流が大切であるという認識の下、東城区、中浪区と手を携えていきながら、次代を担う子どもたちによるスポーツや文化交流事業が継続していくことを願うところです。

## 【参考資料】

1. 「三区間スポーツ交流報告書」  
三区間スポーツ交流団 団長
2. 「交流レポート」  
三区間スポーツ交流団 選手 1 2 名

## 1. 三区間スポーツ交流報告書

三区間スポーツ交流团团長 金子 弘樹

(目黒区立第十一中学校長)

平成 29 年 7 月 25 日から 29 日まで北京市東城区で三区間スポーツ交流及び文化交流が行われた。東城区の熱烈な歓迎と温かく丁寧な対応、そして中浪区の理解と協力により、選手や引率者だけでなく、目黒区の関係者にとっても心に残る貴重な 5 日間となった。

初日、在中華人民共和国日本大使館を訪問し、公使の山本恭司様からお話を伺った。

「中国人を一括りで見るとはではなく、一人一人を見て感じてほしい。そして、みんな違うという前提で接し、その中で自分と同じことがあったらそれを認め、喜びにつなげてほしい」という国渣理解の基本的な考え方を学び、これから国際交流を進める上で、とても大切な、そしてありがたいお話をいただいた。

スポーツ交流として中日韓青少年バスケットボール大会が東城区の地壇スポーツセンターで開催された。各国のチーム編成は三者三様であったが、バスケットボールが大好きという生徒たちが一つのボールに集中し、全力で試合に挑んでいた。第 1 試合は東城区（中国北京市）対中浪区（韓国ソウル市）が行われ、高さや技術、スピードに勝る東城区が中浪区を圧倒した。続いて、第 2 試合の東城区対目黒区が行われ、目黒区はチーム力で東城区に挑んだが東城区が試合を優位に進め勝利を収めた。そして、第 3 試合の目黒区対中浪区が行われ、チーム力で勝る目黒区がパワーの中浪区を抑え勝利した。各国の優秀選手や代表選手だけでなく、参加した選手全員が文化の違いや言葉の違いを乗り越え、同じルールの下、お互いに全力でプレーできたことはお互いを理解するきっかけとなる貴重な経験となった。

大会後、文化交流の一環として北京市第五中学校を訪問した。中浪区の生徒は画面作り、目黒区の生徒はうちわ作りを体験し、中国の伝統文化に触れるひと時を過ごした。翌日は東城区文教施設見学の日。鐘鼓楼では時を告げる高い技術、また、孔子廟と國士監では科挙制度をとおして学問の厳しさを学んだ。午後の故宮博物院では、ラストエンペラーのお話を伺いながら広大な敷地や豪華な建築様式を見学し、権力の偉大さに圧倒され、景山公園から見る故宮博物院は権力の象徴そのものであった。龍壇公園では、目黒区と北京市崇文区との友誼林のさくらを見学し、両区の交流の歴史に触れることができた。公園内では、太極拳や武術、トレーニングなど多くの人々が思い思いに体を動かし、会話を楽しむ市民の社交の場を見ることができた。市民と直接触れ合う場面も設けていただき、市民生活の一端に触れることができた楽しいひと時だった。

この間、中華料理を堪能した。食の安全に配慮しながら、味付けを確認しながらの食事ではあったが、質・量共に存分にいただいた。食をとおして中国文化の理解を深めるとともに、スポーツ交流団の仲間を理解し合い、そしてチーム力を高める時間でもあった。

国際交流の場に中学生を参加させていただいた関係者の方々のご尽力に感謝申し上げるとともに、生徒たちが共有したこの素晴らしい時間と空間を今後の国際交流及び国際貢献の場で生かしてくれることを願う。

## 2. 交流レポート

三区間スポーツ交流団 選手12名

目黒区立第一中学校 2年B組 加藤 航大

中国に行って心に残っていることがあります。第一に、中国人選手がダンクをしていたことです。行く前は、いくら背が高いといっても、190cm前半の人が1人か2人いるぐらいだと思っていたけれど、実際には、190cm後半以上の人がたくさんいて、しかも体格がとてよい人が何人もいました。一番背が高い人が試合中ダンクをしていました。第二に、とてもファールがゆるかったことです。いつもの練習や練習試合でファールが取れていたところもあまりとりあげてもらえず、韓国人選手のプレーが荒く感じました。

僕は中国に行くことができて本当に良かったです。楽しかったし、結果は中国に負けたけれど、韓国チームに勝って良かったです。ファールされても、落ち着いて、あまりイライラせずに自分が今できる一番のプレーができて良かったです。

目黒区立第七中学校 2年B組 岡本 瞬

今回、「三区間スポーツ交流事業」に参加させていただき、とても良い経験ができました。私は、飛行機に乗る前から、緊張してしまいました。今回の交流で学んだことは、言葉が通じなくてもスポーツは通じるということです。

最初の会食の時に、僕の前に座っていた中国の選手が握手をしてきました。食事の時は、積極的にジェスチャーなどを使って、コミュニケーションを取りました。試合会場では、一緒に写真も撮りました。そして、中国と戦うときにはマークマンでした。試合が終わった時に、また握手をしました。言葉では、表せない何かを、感じました。

バスケットボールの面では、個人的に、「十中の山本君」のプレーがとても印象に残っています。目黒区選抜チームの練習でも、今まで見たことないプレー、やったことのないプレーが見られて、とても興奮しました。NBAや、Bリーグなどを見ている、難しく分らないプレーや、自分では絶対にできないプレーがあります。山本君のプレーを見ていたら、もう少しの努力でできそうなことや、今できることを発展させたものなどがあることがわかりました。また、1on1と一緒にやった時に、いろんな技を教えてもらいました。とっても良い経験になりました。七中のレベルに留まっていはいけない、他の中学には、いろんなプレーをする人がたくさんいると感じました。この経験を、七中に持ち帰り、みんなで、優勝できるように頑張ります。そして、今回、このような機会をあたえていただき、本当にありがとうございました。

今回の4泊5日の交流事業を終えて、僕は色々なことを感じ、たくさんのことを学び、バスケットボールがもっと好きになりました。毎日がすごく充実していて、1日1日がすごく良い思い出になりました。

1日目は、わくわくして、朝4時ぴったりに起き、荷物の確認を何回もしたのが心に残っています。中国では、体育館に入るのに、土足で入っても良いところはすごく驚きました。歓迎会（夕食）では韓国選手とたくさん話し、キムという友達が出来ました。

2日目の午後は、楽しみにしていた東城区との試合がありました。午前中に東城区VS中浪区の試合がありました。東城区チームは身長が全員高く、とても驚きました。東城区VS中浪区の試合が終わり、ドキドキしながら昼食を食べに行きました。昼食を終えて、いよいよ東城区VS目黒区の試合が始まりました。すごく緊張しました。みんな全力でプレーをしていて、すごく楽しかったです。試合は負けてしまったけど、すごく良い体験が出来ました。

3日目は、中浪区と試合がありました。中浪区チームは、すこしファウルが多かったけれどすごく楽しかったです。そして中浪区には、20点差以上の差をつけて勝ちました。とても嬉しかったです。MVPは取れなかったけど、楽しかったし、色々な勉強になったので良かったです。夜は、北京ダックを食べました。日本で食べるより生地がモチモチしていて美味しかったです。

4日目は、三区で観光をしました。午前も午後もたくさん歩いたのでとてもつかれたけれど、良い勉強になりました。

5日目は、名前は忘れてしまったけれど、とても大きな公園に行きました。そこには超人的な運動をする人がたくさんいました。トレーニング遊具もたくさんあり、とても楽しかったです。目黒区にもこのような公園があれば良いなと思いました。飛行機に乗り無事に目黒区に着きました。自宅はとても落ち着き、ぐっすりと眠れました。

このような機会をつくっていただき、本当にありがとうございました。とても楽しくて、充実した5日間でした。先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。夏休みの良い思い出、人生の中で良い経験になりました。

僕は、まず中国の話先生から聞いた時、同じチームのメンバーと顔を見合わせて、思わず「えっ〜!!」と練習中に叫んでしまいました。

応募の紙を先生に出す時、僕は、選ばれないと思っていました。先生から受け取った封筒の中を見たら、僕が選ばれていたの、ビックリしました。あのビックリは、一生忘れません。僕が選ばれたのをクラスみんなに言ったら、クラスみんなが、「良かったね」と祝福してくれました。

合同練習の日、僕はいつにも増して緊張していました。そして、練習が始まりました。レイアップの練習の時、レイアップ一本撃つのに、あんなに緊張したのは初めてでした。

試合が始まってすぐ分かったことがあります。それは、目黒区選抜メンバーのすごさです。中国に行く前、このチームなら、絶対に負けないと思っていました。だけど中国の選手を見た時、正直「もうだめだ」と思いました。なぜなら中国の選手が、ダンクシュートをしていたからです。それでも中国での試合は、楽しかったです。

中国の食べ物は、初めは、何の料理か確認しながら食べていましたが、だんだん確認しなくても食べられるようになりました。僕は、スイカと肉を交互に食べました。とてもおいしかったです。

目黒区選抜メンバーとして中国に行ったのは一生の思い出です。また機会があれば今回と同じメンバーで行きたいです。

目黒区立第八中学校 2年A組 竹島 憲太

僕は今回の三区間スポーツ交流を通して、様々なことを学ぶことができました、例えば、中国や韓国との文化の違いです。日本では、車は左側通行が普通ですが、中国では右側通行です。交通面でいうともう一つ、自転車専用道路が中国では全域に拡大されていました。

次に、食事についてです。日本ではたいてい1人に一皿用意されることが多いですが、中国では、大きなお皿の料理をみんなで分けるということがほとんどです。また、日本ではごはんは残さず食べるのが礼儀ですが、中国では、少し残して、お腹がいっぱいになってくれたくらいの方が良いそうです。

このように、同じアジアで、近くにある日本と中国でも、たくさんの異なる文化があり、それを今回のスポーツ交流で知ることができました。僕は、他の国の人とバスケットボールができてとても楽しく、とても良い経験になりました。今回の経験を活かし、今後の学校生活を送っていきたいです。

目黒区立第九中学校 2年A組 宮川 大和

僕は、日本と中国の違いはたくさんあると思います。

1日目ですぐに思ったのはおいです。その国独特のにおいがあるのです。中国から日本に帰る時も感じたことで、国によって独特なにおいがある事を知りました。

2日目、バスケットボールは、中国選手全員の身長が高く、中国の全国大会で優勝しているチームと試合ができ、とても良い経験になりました。この貴重な経験を活かし、残りのバスケットボール部の活動を全力で頑張りたいです。

中国で知り合った同年齢の選手たちとは、言葉は通じなくてもバスケットボールを通じて交流することができ、とても良かったです。

自分達普通の中学生をそのような場所に連れ出していただいた青木区長さんや、目黒区応援団の方々には深く感謝しています。目黒のバスケットボールを強くするためにも、これからもこの事業は続いていってほしいです。

今回このような貴重な機会を頂きありがとうございます。メンバー募集を知った時、すぐに行こうと決めました。なぜなら僕は、バスケットボールが大好きで、外国の人とプレーしたことがなかったからです。最初に行けないと思っていたので、選ばれた時はとても嬉しかったです。選ばれてから中国に行くまでとてもワクワクしていました。十中からは1人でしたが、他校に友達がいたので不安はありませんでした。

当日ワクワクしながら中国に向かいました。中国に行って最初に感じたことは、日本で言われているより空気が汚くなかったことです。心配していましたが、すぐにその心配もなくなりました。

他にも中国に行ってたくさんのかんことを感じました。第一に、中国や韓国の選手達と食事をしている時、ちょっとした英語やジェスチャーなどで会話できたことです。自分達の母国語でなくても話せることがよく分かりました。積極的に話すことで会話が弾み、楽しかったです。

第二に、試合です。初戦の中国チームは日本チームとは比較にならないくらい背が高く、体がガッチリとしていました。あまりにも、違いすぎてとても衝撃的でした。

いよいよ初戦が始まりました。中国はおそらく2m越えの選手が何人かいたと思います。リバウンドでは全然歯が立たず、負けてしまいました。次に韓国と戦いました。最初は苦戦しましたが、チームで戦い、最後は点差をつけて勝利することができました。1人で戦っても勝てなかったと思います。チームで戦ったからこそ手にできた勝利です。

僕は中国戦と韓国戦どちらも10点くらいの活躍でした。閉会式のときにMVPの発表がありました。MVPは、日本、中国、韓国のチームからそれぞれ1人ずつでした。発表される時は緊張しました。あまり活躍できなかったと思っていたので、自信がありませんでした。けれど、MVPに選ばれました。名前を呼ばれた時はとてもビックリしました。とても嬉しかったです。そして、とてもきれいな盾をもらうことができました。

僕は今回の中日韓三区間青少年バスケットボール大会で、とても貴重な体験ができたと思います。また、参加して良かったと改めて感じました。外国の人と一緒にスポーツをやることは、滅多にないと思います。中国や韓国の選手と試合して学んだことを今回のシード権大会だけでなく、今後のバスケ人生で活かしていきたいです。背が高い選手でも通じたところは伸ばし、通じなかったところは修正していきたいです。今回チームメイトだったみんなもこれからは目黒区内で競うライバルです。ライバルに負けないように日々練習に励み、優勝できるように頑張りたいです。今後このような事業があつたら、積極的に参加したいと思います。今回本当に貴重な経験をさせて頂きありがとうございます。

僕は三区間スポーツ交流に参加して、たくさんのかんことを学んで日本に帰ってきました。スポーツ面では、日本人選手より、中国人選手、韓国人選手の身長が高く、驚きました。プレーの仕方が日本と全く違い、とてもやりがいのあつた時間でした。中国に行く前、中

国人はマナーが悪いと話す人がいました。しかし、優しい人もいます。中国人選手に僕はファウルをされて吹っ飛ばされましたが、立ち上がる時にファウルした中国人選手が手を差し伸べてくれました。国が違って、日本人と同じような優しさがあって、とても嬉しかったです。

中国との試合には負けましたが、学んだことがあります。それは、バスケットボールに身長は関係ないという事です。バスケットを始めてからずっと「身長が高いから…」という考えをするようになっていました。中国戦から、身長が高くてダンクできても、レイアップと同じ2点なので、身長差を恐れることがなくなりました。身長が低くても、速攻など、速さに持ち込めば身長は関係ないと思いました。中国戦で学んだことを活かして、都大会出場を目指して頑張ります。

目黒区立第十一中学校 2年A組 武藤 真吾

僕が中国に行って感じたことは、中国チームは強かったということです。身長も高いですが体幹もあり、テクニックもありました。韓国は中国より身長は低いですがその分スピードとテクニックがありました。中国には負けてしまいましたが、韓国に勝てて嬉しかったです。他国の人達とバスケットボールができることはとても貴重なことだと思いますし、とても楽しかったです。

こんなこともありました。中国戦で、目黒の選手が押されて倒れてしまったことがありました。その時、中国の選手が近寄ってきて、倒れた選手が立ち上がる手助けをしました。そのことから、スポーツは言葉が通じなくても、プレーを通して、友達になれるのだと気付きました。

韓国の人達ともご飯を一緒に食べて、ジェスチャーや簡単な英語などで少し話すことができました。本当に良い体験だったと思います。

試合をした後の観光で感じたことは、街並みが日本とは違うということです。ビルがたくさんある中、とても古い中華料理店があったり、街を歩いていると、ところどころ風景や匂いが変わっていったりしました。食べ物も日本とは違いました。ラム肉が普通に使われていて、鳥の頭や足もでてきました。色々な料理を食べて、「おいしいな」と思ったり「意外とだめだな」と思ったり、みんなで食べて、感想を話すのが結構面白かったです。

それから、心配していたPM2.5は思ったより大丈夫でした。通訳さんは、「夏は暑いので木等を燃やさないからPM2.5は大丈夫だよ」と言っていました。

街並み、食べ物、環境から分かったことは、日本人との意識の差です。街並みは古い建物も新しい建物もあり、食べ物は色々な食材を試す。そして、環境にも配慮する。こんなところが中国の人達の意識だと思います。僕は、中国に行く前は、中国に良い印象をあまりもっていませんでした。でも、この三区間スポーツ交流事業で中国の良さ、すごさを学べました。とても良い体験でした。本当にありがとうございました。

目黒区立東山中学校 2年B組 澤田 昂佑

僕は、この三区間スポーツ交流で中国に行き、中国や韓国の人と交流して、沢山の言語を話せることが大切だと思いました。

何故なら、中国人と韓国人と日本人で食事をした時に、中国人から英語で質問を受けても質問に答えるだけで、自分から質問することが出来なかったからです。

このように自分の知らない言葉が話されても答えられません。だから、相手も知っている言葉の話す必要があると思いました。今までは、全ての人が英語を勉強すれば、どこの国に行っても話が通じると思っていましたが、英語を話せるようになって、話す相手がまだ英語を使えなかったら知っていても知らなくても同じです。だから、少しでも良いから、沢山の言語を話せることが大切だと思います。

これらのことから、日本の中にも自国の言語だけではなく、他国の言語もしっかり学ぶことが大切だと思いました。

目黒区立目黒中央中学校 2年C組 橋口 晃太

私は、この三区間スポーツ交流事業を通して、今まで以上に韓国・中国に興味をもちました。最初は、中国・韓国の選手がどんな人か、現地はどんなところかと不安が最初がありました。しかし、そんな不安はすぐなくなり、とても楽しい4泊5日でした。中国選手や韓国選手とコミュニケーションを取るのが大変でしたが、4日目の文化交流ぐらいから、お互いに少しコミュニケーションができるようになってきました。交流をしていくうちに、その国の良いところを知ることができました。

私が一番印象に残ったのが3日目の夕食です。夕食の時に隣の韓国人選手が、持ってきた、コチュジャンをくれました。とても嬉しかったです。その日は、夕食で出ている北京ダックと一緒に食べました。とてもおいしかったです。

私は、積極的に話すことができませんでした。外国語、特に中国語・韓国語を勉強して、2020年東京オリンピックで、自分は、外国の方、特に中国の人や韓国の人と交流できるように勉強していこうと思いました。

バスケットボールの交流では、中国選手の背の高さに驚きました。同じ学年とは思えないほど背が高かったです。もし、もう一度戦うことがあったら、負けないようにしたいです。日々の部活動で練習をしっかりして、もっと強くなりたいです。

目黒区立大鳥中学校 2年1組 大石 晴陽

僕は、中国に行くことになった時、とても嬉しかったのですが、同時に不安にもなりました。中国では何が分かるか分からないというのが大きな要因でした。PM2.5もそうだし、水道水も飲めない。そしてミサイルの件で問題になっている北朝鮮とも近いなど、不安になるようなことがいっぱいイメージでした。

そんな中迎えた出発の日。僕は都大会で選抜チームの練習を一回休んでいたの、あまりみんなと打ち解けてはいませんでした。そして中国に到着。1時間以上かかると言われていた入国審査もすんなり終わり、外に出ました。思った通り空はどんよりと曇っていましたが、空気が汚いとはあまり思いませんでした。バスで移動しながら建物を見たけれど、日本にもありそうなビルがたくさん建っていました。通訳の人も良い人でした。

試合はどちらも、日本の代表として一生懸命プレーできたと思っています。中国や韓国、そして同じ日本の選手とも、バスケットボールを通じて、絆が深まった気がしました。その証拠に、初日の歓迎会よりも、日が経つにつれ、両国の選手が積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれるようになりました。試合をしている時は恐そうに思っていたが、話をしている時は普通の中学生という感じがしました。

今まで中国に対して思っていた悪いイメージは、全部思い込みで、本当はとても良いところでした。また来年も機会があったら、ぜひ参加したいと思えたスポーツ交流でした。

